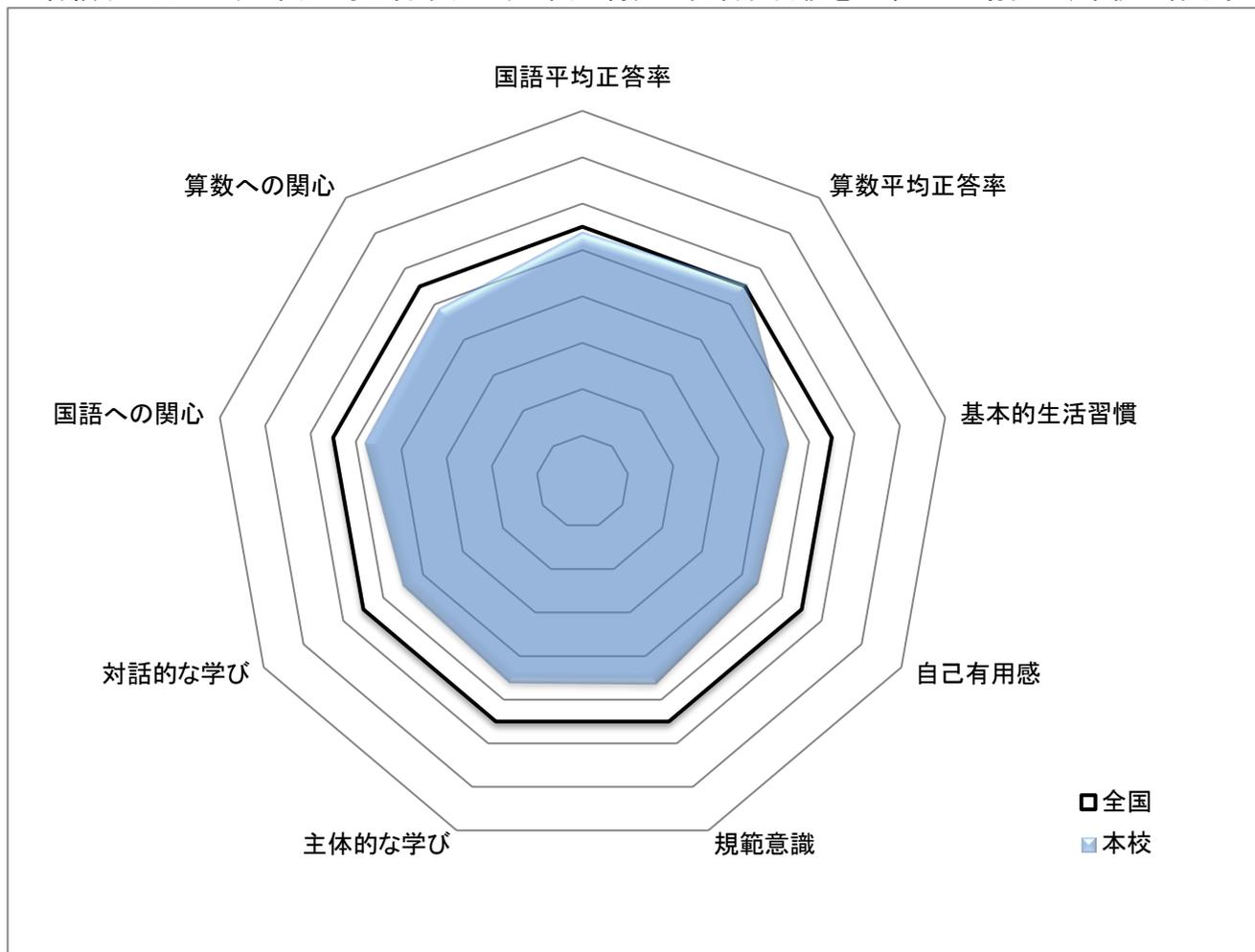


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

○国語・算数ともにおおむね、全国の平均正答率と変わらない数値であるため、基礎的な学力は定着していると考えられる  
 ○学習の関心に関する項目は特に「国語・算数の学習は大切ですか」の質問に対して、肯定的な回答が平均よりも低かったため、学習に対して、必要感を感じていない児童が多いと考えられる。  
 ○主体的・対話的な学びに関する項目は、特に「自分の考えをまとめる」項目に関する肯定的な回答の数値が低かったため、自分の考えをもてない。または、表現の仕方がわからない児童が多いと考えられる。

《授業改善のポイント》

○学習に対する必要感が低いことがアンケートから読み取れるため、授業の中で日常生活に関連する問題場面を設定することによって、日常生活と学習とのつながりを意識する授業展開にしていく。  
 ○単元を通して、知識・技能を高める授業と知識・技能を活用する授業を意識的に差別化して単元を構成することにより、児童がどのように知識・技能の活用の仕方が理解できる授業づくりを行う。  
 ○調べ学習等の探求的な授業を通して、自分の考えを表現する経験を増やすようにすることで、自分の考えをもつための視点等をもたせられるようにしたり、表現の仕方を学んだりできるようにしていく。

《チャートの特徴》

○国語・算数ともにおおむね、全国の平均正答率と変わらない数値である。  
 ○学習の関心に関する項目は、全国の平均値に比べて1割程度低い数値であり、特に「国語・算数の学習は大切ですか」の質問に対して、肯定的な回答が平均よりも低かった。  
 ○主体的・対話的な学びに関する項目は、全国の平均値に比べて1割程度低い数値であり、特に「自分の考えをまとめる」項目に関する肯定的な回答の数値が低かった。  
 ○基本的な生活習慣に関する項目は全て全国の平均値よりも下回っていた。

《家庭・地域への働きかけ》

○基本的な生活習慣の数値が全国の平均値より、低いことから、家庭学習強化習慣（スタディウィーク）を活用し、家庭への呼びかけをより強めていく。